

べ、その結果を数量化した。

### 3 児童・生徒の支援要求傾向

個人をみる視点として、認知面だけでなく、児童・生徒が教師や授業にどのような思いや願いを持っているか把握しておくことは大切である。

授業が教師の支援の基に行われることを考えると、児童・生徒の思いや願いを満たしながら学習活動が進むとき、学習意欲はより高まり、教師との信頼関係が深まるものとする。教師は、児童・生徒の支援要求に応えるような授業を進めていく必要がある。

研究では教師に対する支援要求の傾向を、質問紙を使って、児童・生徒の自己評価によって調べ、結果を数量化した。その調査用紙を次に示す。

平成 年 月 日

この調査は、あなたの学習を先生が援助するときの参考にするために行うものです。

下の1～12の項目について、右の表のア～エで自己評価をしてください。

段階	内 容
ア	いつも援助が必要である
イ	ときどき援助が必要である
ウ	だいたい自分ができる
エ	いつも自分ができる

年 組 番 名前

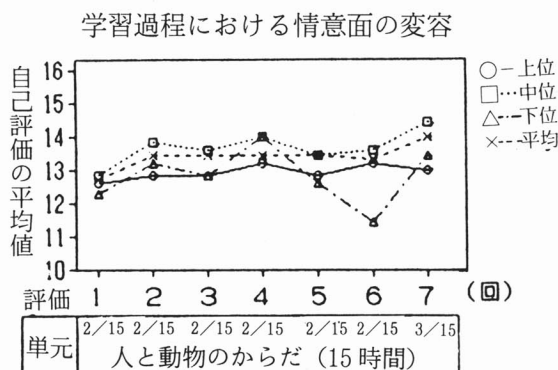
項 目	段階
1 わからないことがあったとき、どうすればよいかわかる。	
2 理解できないときは質問することができる。	
3 学習するとき、他の人に聞いたりしないができる。	
4 何を学習しなければならないかわかる。	
5 時間をどのように使うか計画を立てることができる。	
6 どこがわかって、どこがわからないか判断できる。	
7 できるようになるまで自分一人で学習することができる。	
8 時間がかかっても根強く学習することができる。	
9 どのくらいできるようになったかわかる。	
10 自分のペースで学習することができる。	
11 自分のいいたいことをいうことができる。	
12 自分の学力をのばすためには困難なことにも挑戦することができる。	

## II 実践から

以下に、各授業実践の結果の一部を紹介する。

### 1 自己評価カードを通して児童との交流を継続した支援（小学校・理科・6年）

授業の後、学習へ取り組む意欲に関して児童に自己評価させ、その結果に対して教師が一人一人にコメントを返すという形で支援を行った。単元の学習が終わるまでこのような支援を継続したら、グラフにみられるような意欲の高まりがみられ、知識・理解の定着にも効果があった。継続的な支援が効果的であった。



### 2 生徒の願いに応える手だてとして「学習日誌」を活用した支援

（高等学校・理科・1年）

毎時間の授業での質問や疑問、感想や要望などを生徒に自由に書かせ、教師がそれに応える支援を継続して行った。日誌の記載内容を通しての支援の他に、日誌の受け渡しのときの生徒との対話が生徒との信頼関係を深めるのに大変役立った。また、成績が下位群の生徒に対しては学習意欲を高める効果があった。

図は、「学習日誌」の活用状況に関しての自己評価と意欲の傾向の関係を成績群別にみたものである。両者の相関は成績下位群で特に強く、